

報道関係各位

## 内視鏡下手術支援ロボットによる治療を開始 ～千葉県東総地域では初～

総合病院国保旭中央病院(病院長:吉田象二 病床数:989 以下、旭中央病院)では、このたび、内視鏡下手術支援ロボット「da Vinci (ダ・ヴィンチ) サージカルシステム」を導入し、1月7日に同システムを適用した初症例となる前立腺がん摘出手術を実施しました。

「da Vinci サージカルシステム」は、執刀医が術野の3D画像を見ながら4本のロボットアームを操作して実施するもので、通常の腹腔鏡下手術に比べ、より精緻な手術が可能になること、人間の手よりも稼働域が広いいため繊細な手術操作が可能であること、またシステム独自の機能により手ぶれが無い、などの利点があります。また、患者にとっては、開腹手術に比べて出血量が少ないことや手術創が小さいこと、加えて術後疼痛の軽減により入院期間の短縮と早期の社会復帰が可能となる、などのメリットがあります。

同システムはアメリカを中心に世界で約2,500台、日本では75台が稼働しています\*<sup>1</sup>。千葉県においては当院が5例目\*<sup>2</sup>となり、当院の診療圏(千葉県北東部および茨城県南部)の医療機関では初の導入となります。旭中央病院は年間約60例の前立腺がん手術を行っており、今後同手術については、適用除外症例を除き、da Vinciによる手術を行う予定です\*<sup>3</sup>。現在、同システムを利用した手術に公的保険が適用されるのは前立腺がんの摘出手術のみで、それ以外の疾患に適用する場合には自由診療あつかいとなります。旭中央病院では、今後、消化器など他の疾患についても、順次適用を開始する予定です。

「da Vinci サージカルシステム」は3つの機器から構成されています:



### 操作部: サージョンコンソール

医師がロボット部分の鉗子を操作する機械です。拡大された高解像度3次元立体画像を見ながら両手で操作をします。



### ロボット部分: ペイシェントカート

医師の手の動きを正確かつ繊細に再現して、手術を行う部分です。鉗子には人間の様に関節があり、手のような動きを再現できます。



### 助手用モニター:ビジョンカート

操作している医師以外のスタッフは、このモニターを見ながら手術をサポートします。

【注】 ※1: 2012年11月30日現在

※2: 2012年11月30日現在の県内導入病院:千葉県がんセンター、千葉大学医学部付属病院、  
我孫子東邦病院、鎌ヶ谷総合病院

※3: 「da Vinci サージカルシステム」の適用は、患者の病歴や病状により、医師が判断します

---

本件に関するお問い合わせ

旭中央病院 広報室

TEL:0479-60-1030

FAX:0479-62-7690

E-mail:kouhou@hospital.asahi.chiba.jp